

大阪府レッドリスト 2014



大阪府

目 次

1. 改訂の背景とその結果の概要	1
2. 対象分類群及び分野	1
3. 大阪府の保護上注目すべき野生動植物、地形・地質及び生物多様性 ホットスポット	2
4. レッドリスト2014カテゴリー	7
5. レッドリスト2014総括表	8
6. 各分類群及び分野のレッドリスト	
哺乳類	9
鳥類	10
爬虫類	12
両生類	12
汽水・淡水魚類	13
昆虫類	14
クモ類	21
陸産貝類	22
淡水産貝類	23
海岸生物（無脊椎動物及び藻類）	24
その他淡水産無脊椎動物	27
維管束植物	28
コケ植物	36
菌類	39
地形・地質	41
生態系	43
7. 生物多様性ホットスポット	46
8. 調査体制	48

大阪府レッドリスト2014

1. 改訂の背景とその結果の概要

大阪府では、府内に生息・生育する野生動植物の現状を府民の方々と共有し、豊かな自然環境の保全や野生動植物保護の資料とするため、平成12年(2000年)に「大阪府における保護上重要な野生生物」(大阪府レッドデータブック)を作成したが、その後の研究の進展、生物多様性をめぐる認識の変化、府内の野生動植物の生息環境の変化などもあり、今般大阪府レッドリスト2014として改訂することとした。

レッドリストの選定については、各分類群の専門家で作成する「大阪府レッドリスト改訂検討委員会」(11名の委員)を設置し、研究者間の議論だけでなく、博物館などを拠点に市民からの協力を得て、ワーキンググループによる標本・文献調査や現地調査も実施して選定した。

対象とした分類群と分野は、大阪府レッドデータブック(平成12年)のものに、クモ類・海岸生物(無脊椎動物及び藻類)・その他淡水産無脊椎動物・コケ植物・菌類を追加し、地形・地質や生態系を新たに加えた。また、希少な野生動植物が生息・生育する地域を「生物多様性ホットスポット」として選定した。

対象分類群ごとに文献・標本調査と現地調査を行うとともに、大阪府レッドデータブック(平成12年)作成後に新たに大阪府内で確認された種、個体数や生息・生育地の環境に変動のある種及び環境省のレッドリストの見直し等に考慮し、ランクの変更や新たに追加する種などを検討した。

その結果、野生動植物種では、大阪府レッドデータブック(平成12年)に新たに追加されることになった種数は704種(うち新規対象分類群からは406種)で、合計1,485種となった。

絶滅のおそれのある種(絶滅危惧Ⅰ類と絶滅危惧Ⅱ類)の増加が特に顕著な分類群は昆虫類で、65種から140種と2倍以上に増加した。維管束植物も185種から247種と増加した。

絶滅と判定した種については、新たに昆虫類で10種、淡水産貝類で1種、維管束植物で18種が追加された。新規対象分類群からは海岸生物で14種、コケ植物で3種が絶滅種とされた。一方、汽水・淡水魚類で1種、維管束植物で16種が再発見や過去の情報の精査により絶滅種から除外された。

2. 対象分類群及び分野

今回のレッドリストの作成においては、大阪府全域(汽水域及び潮間帯を含む)を対象とし、そこに生息・生育する野生動植物に加え、地形・地質、生態系についても評価対象とした。ただし、微小菌類・動植物プランクトン等の微小生物については、一般市民の発見や確認が難しいため、対象外とした。変形菌類や淡水産無脊椎動物のうちエビ類等、知見が不十分なために今回検討を見送ったものもある。

【対象とした分類群及び分野】

1. 哺乳類
2. 鳥類
3. 爬虫類
4. 両生類
5. 汽水・淡水魚類
6. 昆虫類
7. クモ類
8. 陸産貝類
9. 淡水産貝類
10. 海岸生物(無脊椎動物及び藻類)
11. その他淡水産無脊椎動物
12. 維管束植物
13. コケ植物
14. 菌類
15. 地形・地質
16. 生態系

※上記の他、地形・地質や生態系、希少な野生動植物が生息・生育するなど、生物多様性保全の観点から「生物多様性ホットスポット」についても選定した。

3. 大阪府の保護上注目すべき野生動植物、地形・地質及び生物多様性ホットスポット

今回のレッドリストに掲載されている大阪府内に生息・生育する野生動植物及び、地形・地質の中から、特徴的なものや絶滅したもの、個体数が急激に減少しているもの、今回新たに掲載種となったものなどを写真とともに紹介する。

◆哺乳類



ハタネズミ（ネズミ科）

絶滅危惧Ⅰ類

農耕地や河川敷などの広い草地に生息する。大阪府で現在生息が確認されているのは、高槻市鶴殿の淀川河川敷のみ。その生息数も10数年前と比べると激減している。

（写真提供者：松浦宜弘氏）



ユビナガコウモリ（ヒナコウモリ科）

絶滅危惧Ⅰ類

大阪府では、箕面市や阪南市でのみ確認されている。生息地は、鉱山跡のトンネルや、ダム那点検坑など。大阪府で記録されている他の洞穴生のコウモリ（テングコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ）も、こうした人工の洞穴に依存している。

（写真提供者：浦野信孝氏）

◆鳥類



サシバ（タカ科）

絶滅危惧Ⅰ類

水田と林がセットになった里山環境を代表するタカ。農耕地周辺で、両生類、爬虫類、昆虫などをおもに捕食するとされる。その保全には、カエルなど多様な生物相がはぐくまれる里山環境の保全が欠かせない。

（写真提供者：納家仁氏）



ケリ（チドリ科）

準絶滅危惧

農耕地で繁殖する。おもに平地の鳥で、能勢町や豊能町など山間部の田んぼには、ほとんど生息しない。大阪府では、平地の農耕地が急速に減少、分断化されており、ケリの生息できる環境が少なくなっている。

◆爬虫類



タカチホヘビ (ナミヘビ科)

準絶滅危惧

北摂や金剛・和泉の山地に生息するが、個体数は少ない。ミミズを主食とし、落葉樹の落ち葉がよく堆積した谷筋などで見つかることが多いが、タカチホヘビの生息に適した場所は限られる。



ニホンイシガメ (イシガメ科)

準絶滅危惧

丘陵から山地のため池や、田んぼの水路などにおもに生息する。しばしば水から離れて、林内を移動する。市街地の公園の池にも見られるが、野生個体なのか、ペットが放されたものなのか、はっきりしないことが多い。

◆両生類



コガタブチサンショウウオ (サンショウウオ科)

絶滅危惧Ⅱ類

金剛・和泉の山地に生息し、河川上流部のわずかな流れに産卵し、幼生は流水の中で成長する。産卵期以外は水から離れて暮らし、林床などで見つけるのは難しい。



ニホンアカガエル (アカガエル科)

絶滅危惧Ⅱ類

2～3月、田んぼなどの水深5～20cm程度の浅い水辺に産卵し、普段は周辺の林内に生息している。おもに丘陵地に生息しているが、住宅開発によって田んぼが減少、また冬に水をためない田んぼの増加によって、生息地とくに産卵適地が減少している。

◆汽水・淡水魚類



イタセンバラ (コイ科)

絶滅危惧Ⅰ類

国の天然記念物で、種の保存法選定種。淀川のワンドに生息するが、河川改修や外来種の影響により、近年極めて減少している。秋に産卵し、生きている二枚貝に卵を産み込む。平成21年より淀川への野生復帰が試みられている。



ヨドゼゼラ (コイ科)

絶滅危惧Ⅱ類

平成22年に発見された新種の淡水魚。“ヨド”の名を冠するように、淀川が主な生息地。かつては淀川流域に広く分布していたが、河川改修等により生息環境が悪化し、個体数が減少している。

◆昆虫類



スジゲンゴロウ (ゲンゴロウ科)

絶滅

水田地帯に生息していたと考えられるが、近年全国的に記録がなく、環境省 2012 年版レッドリストでも絶滅種となった。大阪府では生息が知られていなかったが、今回の標本調査により、1950 年代に現在の堺市美原区に生息していたことが明らかになった。



ハッチョウトンボ (トンボ科)

絶滅危惧 I 類

平地から丘陵地・低山地にかけての日当たりのよい湧水の湿地などに生息。成虫の体長は、雌雄とも 20mm 前後で、日本最小のトンボとして知られる。近年、大阪府では安定した生息地がなくなっている。

◆クモ類



ワスレナグモ (ジグモ科)

絶滅危惧 II 類

フタのない縦穴に放射状の糸を引いてその中で待ち伏せ、昆虫などを捕獲する。平地の草地や畑、公園などに生息するが、府内での生息地は限られる。



コガネグモ (コガネグモ科)

準絶滅危惧

かつては里山的環境で多く見られたが、適した生息場所や餌となる昆虫が減ったことも影響し、最近では限られた場所で見られなくなっている。

◆海岸生物 (無脊椎動物及び藻類)



ホソウミナ (ウミナ科)

絶滅危惧 I 類

おもに干潟の泥上に生息するウミナ科の巻き貝。全国的には普通種だが、干潟の減った大阪府では少なく、泉南の河口干潟の数ヶ所では確認されていない。直達発生で分散能力が低いため、外海からの新規加入や湾内での分布拡大が進まないものと考えられる。

◆その他淡水産無脊椎動物



タマカイエビ (タマカイエビ科)

絶滅危惧 I 類

大型鰓脚類の一種。卵が水に浸ると孵化して急速に成長して親となり、産卵して短期間に一生を終える。水田が格好の生息場所となる。近畿地方でも記録は非常に少なく、府内では能勢町と高槻市の奥部でしか確認されていない。

◆維管束植物



ムラサキセンブリ（リンドウ科）

絶滅危惧Ⅰ類

日当たりのよい草原や岩場に生える。センブリより草丈が大きく、花も少し大きい。9～10月頃、淡い紫色の花が咲く。府内の分布はごく限られている。



サギソウ（ラン科）

絶滅危惧Ⅱ類

日当たりのよい湿地に自生。夏に花茎を長く伸ばし、鷺が羽を広げたような真っ白な花を咲かせる。乱獲や生育環境の破壊により府内でも分布が限られる。

◆コケ植物



カビゴケ（クサリゴケ科：苔植物門）

絶滅危惧Ⅱ類

植物体は淡緑色で、基物上を匍う。茎は長さ1cm以内。かつては西南日本の暖地の溪流沿いの湿度の高い林の常緑樹やシダの生葉上に着生し比較的普通に見られたが、近年その生育地が減少傾向にある。



オオミズゴケ（ミズゴケ科：蘚植物門）

絶滅危惧Ⅱ類

山麓や丘陵地の湿った地上や湿原に大きな群落を作る。茎は長さ10cm以上。府内でも多く確認されたが、開発されやすい場所に多くあることから、減少傾向が著しい。

◆菌類



アカイカタケ（アカカゴタケ科）

絶滅危惧Ⅱ類

腐食の貯まる雑木林に発生する腐生菌類。イソギンチャクのような奇抜な形態である。独特の臭気を放ち、胞子はハエなどの昆虫が運ぶ。近畿では発生地でも見られる年は限られており、稀産種である。多様な菌類がさまざまな条件下でさまざまな有機物を分解し、分解系を構成している。



マツタケ（キシメジ科）

絶滅危惧Ⅱ類

痩せたアカマツ林に発生する有名な食用菌。落ち葉をかきさらされた、土がむき出しになったアカマツ林で松の根と共生する。近年では発生量が激減している。落ち葉がたまり他の共生するキノコに生息場所を奪われるとともに、さらに松枯れによって共生相手であるアカマツの枯死が進んだためである。

◆地形・地質



河合・神於山マイロナイト

Aランク

マイロナイトとは岩石が固体の状態では塑性的に変形し形成される岩石。河合・神於山マイロナイトは、岸和田市の白亜紀領家花崗岩類に東西走向で発達する、幅約500mの延性剪断帯である。このような延性剪断帯は、内陸地震の発生と密接に関係していると考えられている。



有馬-高槻断層帯による断層変位地形

Aランク

有馬-高槻断層帯は、北摂山地と大阪平野・六甲山地の境界部にほぼ東北東-西南西に延びる長さ約55kmの活断層帯である。主要部は右ずれ北側隆起の活動を示し、最新の活動は西暦1596年の慶長伏見地震で、その時のずれの量は3m程度であったと推定されている。

(写真提供者：樽野博幸氏)

◆生物多様性ホットスポット



淀川ワンド群（城北・庭窪・楠葉など）

Aランク

淀川の川岸から直角方向に設置された石積みをもとにして、そこに堆積した土砂が造り上げた水域がワンドであり、それらが岸に沿って連なった場所をワンド群とよぶ。水の流れや土砂の堆積により多様な環境が生じ、生物多様性の豊かな水域が広がる。しかし近年、オオクチバスをはじめとした外来魚等の影響により、淀川のシンボルとされるイタセンバラの確認も途絶えた。そこで、「イタセンバラを再び淀川に！」の合言葉のもと、淀川の生物多様性の回復を目指し、市民団体や関係行政からなる「淀川水系イタセンバラ保全市民ネットワーク」が設立され、城北ワンド群（大阪市旭区）の一部において、外来魚の駆除等の取り組みが進められた。その結果、多数の在来魚が復活し、生物多様性が回復したことから、平成24年10月、地元の小中学生らによりイタセンバラの放流が行なわれた。現在、官民挙げての保全活動が進められている。



三草山

Bランク

能勢町三草山はクスギ、コナラ、アベマギ、ナラガンワなどの落葉広葉樹の管理された里山林で、ミドリシジミ類の蝶であるゼフィルス類10種をはじめ、60種を超えるチョウ類が生息している。南東斜面の約14haは大阪府緑地環境保全地域にも指定されており、「三草山ゼフィルスの森」として公益財団法人大阪みどりのトラスト協会がその管理を行っている。ここでは、林床のネザサなどについて縞状の刈り払いや異なる時期での刈り払いなどを行い、また樹木も部分的に萌芽再生させるエリアをつくるなど、多様な環境を創出するために、モザイク的な里山林の管理を行っている。このようにして維持された豊かな植生がチョウ類をはじめとする生物種の多様性を育んでいる。また、この森を守るために寄付を募り、トラスト運動が進められている。

4. レッドリスト2014カテゴリー

レッドリスト2014のカテゴリーは、環境省版レッドリストに準拠した大阪府レッドデータブック（平成12年）のカテゴリー区分としたが、「要注目」というカテゴリーは内容が不明瞭のため採用しなかった。各カテゴリー及び定義は以下の通りである。

■大阪府レッドリスト2014におけるカテゴリー

<野生動植物種>

カテゴリー	定義
絶滅 Extinct (EX)	大阪府内ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧 Threatened	
絶滅危惧Ⅰ類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN)	大阪府内において絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU)	大阪府内において絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	大阪府内において存続基盤が脆弱な種
情報不足 Data Deficient (DD)	評価するだけの情報が不足している種

<地形・地質>

カテゴリー	定義
Aランク	規模的、質的にすぐれており、貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの
Bランク	Aランクに準ずるもので、地方的価値、都道府県的価値に相当するもの
Cランク	Bランクに準ずるもので、市町村的価値に相当するもの

<生態系>

カテゴリー	定義
Aランク	大阪府内において消失の危機に瀕している環境
Bランク	大阪府内において消失の危険が増大している環境
Cランク	大阪府内における存続基盤が脆弱な環境

<生物多様性ホットスポット>

カテゴリー	定義
Aランク	多様な生物種群の絶滅危惧種にとっての生存基盤となっている重要な生息地
Bランク	Aランクに準ずる生息地
Cランク	一部の絶滅危惧種に限られるが、その生存基盤となっている生息地

5. レッドリスト2014総括表

大阪府レッドリスト2014総括表

	分類群	掲載種数	絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足
1	哺乳類	17 (12)	0 (0)	4 (2)	4 (3)	5 (4)	4 (3)
2	鳥類	82 (95)	0 (0)	7 (2)	26 (27)	47 (61)	2 (5)
3	爬虫類	7 (7)	0 (0)	2 (2)	1 (0)	4 (1)	0 (4)
4	両生類	12 (7)	0 (0)	2 (1)	6 (2)	4 (4)	0 (0)
5	汽水・淡水魚類	49 (38)	0 (1)	19 (13)	10 (9)	9 (3)	11 (12)
6	昆虫類	405 (182)	22 (12)	54 (20)	86 (45)	188 (100)	55 (5)
7	クモ類	20 —	0 —	1 —	2 —	5 —	12 —
8	陸産貝類	28 (24)	0 (0)	15 (15)	4 (7)	4 (1)	5 (1)
9	淡水産貝類	31 (25)	6 (5)	10 (6)	9 (8)	4 (4)	2 (2)
10	海岸生物（無脊椎動物及び藻類）	179 —	14 —	8 —	40 —	74 —	43 —
11	その他淡水産無脊椎動物	4 —	0 —	3 —	0 —	0 —	1 —
12	維管束植物	448 (405)	86 (84)	162 (125)	85 (60)	92 (89)	23 (47)
13	コケ植物	143 —	3 —	44 —	47 —	40 —	9 —
14	菌類	60 —	0 —	5 —	22 —	24 —	9 —
	合計	1485 (795)	131 (102)	336 (186)	342 (161)	500 (267)	176 (79)

※ () 内は、大阪府レッドデータブック（平成12年）で掲載した種数、また、「掲載種数」の () 内は、要注目種数を除いた数値

※ () 内の数値は参考数値（分類群の区分を変更している種があるため）

	分野	掲載箇所数	Aランク	Bランク	Cランク
15	地形・地質	44	4	23	17
16	生態系	23	3	11	9
17	生物多様性ホットスポット	55	16	11	28

